

パプアニューギニアの水不足に 沖縄の小型海水淡水化装置で挑む

国際協力機構(JICA)は1月26日、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」(以下、案件化調査)において、沖縄県うるま市のワイズグローバルビジョン株式会社(代表取締役 柳瀬良奎)が提案する「海水淡水化装置を用いた住民向け飲料水の販売事業モデル構築のための ODA 案件化調査」(対象国 パプアニューギニア独立国)を採択しました。

パプアニューギニアでは上水道が十分整備されておらず、特に地方での上水道整備率は低く、地方の住民が安全な水にアクセスができない状況が続いています。加えて、近年は気温変動の影響で干ばつが多く、水不足が一層深刻化しており、飲料水としての水資源の確保が

喫緊の課題となっています。ワイズグローバルビジョン株式会社は、同社が開発した小型でありながら簡単に真水が作れる海水淡水化装置「オーシャンピュア」を活用した飲料水販売事業をパプアニューギニアにおいて展開することにより、同国地方部に居住する住民へ安全で美味しい水を供給することを目指します。沖縄県内企業のパプアニューギニアでの事業展開により、同国が抱える水資源問題の改善に寄与することが期待されます。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術を ODA 事業に活用するための 情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2016年度第2回分は昨年9月に公示を行いました。36件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

参考:(プレスリリース)案件化調査 2016年度第2回公示の採択結果について

URL:<https://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/index.html>



「小型海水淡水化装置」

(オーシャンピュア E-1000D)

(写真:ワイズグローバルビジョン株式会社)

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 沖縄国際センター 民間連携担当: 尾藤翔子、照屋りか

TEL 098-876-6000 e-mail: jicaaic-psp@jica.go.jp